

ソーシャルメディアのトラブル事例

- 「明日は休講！」というリツイートが Twitter のタイムラインに流れてきたので、自分もリツイートした。ところがこの情報はデマで、自分も、自分のリツイートを信じた友人も、講義を欠席してしまった……。

ソーシャルメディア上の情報は必ずしも正しいものとは限りません。

公式ホームページや公式アカウント、情報ソースを確認するなどして真偽を判断し、誤った情報を更に広げないようにしましょう。

- 友人の家に集まって、仲の良いメンバーで誕生日パーティをした。良い思い出になるだろうと思って、こっそり写真を撮って Facebook に掲載した。後日、集まった友人たちから勝手に掲載しないでほしいと怒られてしまった……。

他の人の写真や情報を掲載する際には了承を得てからにしましょう。

無断で掲載した場合、交友関係に思わぬトラブルを生むおそれがあるだけでなく、プライバシー権や著作権などを侵害することになりかねません。

写真に掲載する時の注意

GPS機能のついたデジカメやスマートフォンで撮影した写真には、位置情報が記録されることがあります。位置情報を公開することによって、自宅や活動エリア、活動時間帯などを特定され、事件に巻き込まれる危険性を高めますので、十分注意しましょう。

個人情報の公開は必要最低限に留め、公開する必要がある場合は公開範囲を適切に設定しましょう。

個人情報は写真や動画などにも含まれています。個人情報は、氏名、生年月日、住所といった個人を特定できるものだけではなく、ひとつだけでは個人を特定できなくても、容易に他の情報と照合でき、そのことによって個人を特定できる情報も含まれるとされています。信頼できるかどうかわからない相手に、安易に個人情報を教えるはなりません。友人や家族の個人情報についても同様に気をつけましょう。

例えば……

あなたがソーシャルメディアのアカウント名を名字だけにしていたとします。これだけではあなた個人を特定できませんが、プロフィール欄に「所属サークル」「学校名」「配属研究室」などの情報が記載されていれば、あなたを特定することができますので、『個人情報』となります。



- 就職活動がうまくいかずにイライラして、ある企業について批判的な意見を Facebook に投稿した。翌日になって削除したが、いつの間にか別のソーシャルメディアに自分の Facebook アカウントの顔写真と共に削除したはずの発言が転載されていた。削除依頼を出したが、どんどん他のソーシャルメディアにも転載され、もう自分の手に負えないほど広まってしまった……。

ソーシャルメディアに掲載した情報を完全に削除することは容易ではありません。

一度掲載された情報は、あなたが情報を削除しても、別のかたちで誰かのコンピュータ等に記録されている可能性があります。また、ソーシャルメディアでは瞬時に情報の拡散が行われるため、気がついた時には自分でコントロールできないほどに広がっていることがあります。掲載する前に、それは一生残っても良い情報なのかどうか、よく考えましょう。

- アルバイト先でおもしろいことがあったので、Twitter に書き込んだ。アカウントは匿名だったし、アルバイト先の詳細は書かなかったのに、アルバイト先から、自分が投稿したことがばれて叱られてしまった……。

匿名であっても個人を特定されることがあります。

掲載前後や過去の発言内容、IPアドレスなどによって、発信元を特定することができます。匿名であったとしても、現実社会と同様に、思いやりと責任をもって発言しましょう。



あなたが公開した情報によって他人や組織が被害を被った場合、法的に訴えられたり、損害賠償を求められることがあります。

- ニュースで話題になっていた事件について、ちょっと過激な意見を Twitter で発言した。匿名アカウントでの発言だったのに、なぜか自分の名前がばれてしまい、住所や学校まで特定されてしまった。それだけにとどまらず、友人、家族の情報まで次々にさらされて、多くの人に迷惑をかけてしまった……。

不用意な発言は大きな影響を及ぼすことがあります。

たとえちょっとした冗談のつもりだったとしても、炎上や嫌がらせの対象になったり、大きな社会問題になることがあります。そうなった時、被害はあなただけではなく、あなたの友人や家族など、身の周りにまで及ぶ可能性があります。不用意な発言は絶対にやめましょう。

リスクを理解した上で、効果的にソーシャルメディアを利用しましょう。